

第14回ITER理事会の開催結果について



平成26年7月22日

文部科学省



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

第14回ITER理事会の日程等

日程： 2014年6月18日(水)－19日(木)

場所： ITER機構本部(フランス、サン・ポール・レ・デュランス市)

議長： アイオッティ CH2M-WG HILL 原子カビジネスグループ社 元会長

出席者：

日本： 土屋 文部科学審議官 他

欧州： スミッツ 欧州委員会研究・イノベーション総局長 他

米国： ノーテク エネルギー省科学・エネルギー担当副次官 他

ロシア： ボロフコフ ロシア連邦政府国防産業委員会委員長 他

中国： 曹(ツァオ) 科学技術部副部長 他

韓国： 李(イ) 未来創造科学部研究開発政策局長 他

インド： グローバー ホミ・バーバ国立研究所長 他

ITER機構： 本島 機構長 他

第14回ITER理事会の主な議題

(1) 開会挨拶

(議長、各極代表、機構長)

(2) ITER機構活動報告、諮問委員会等からの報告

(3) ITER計画の進捗状況

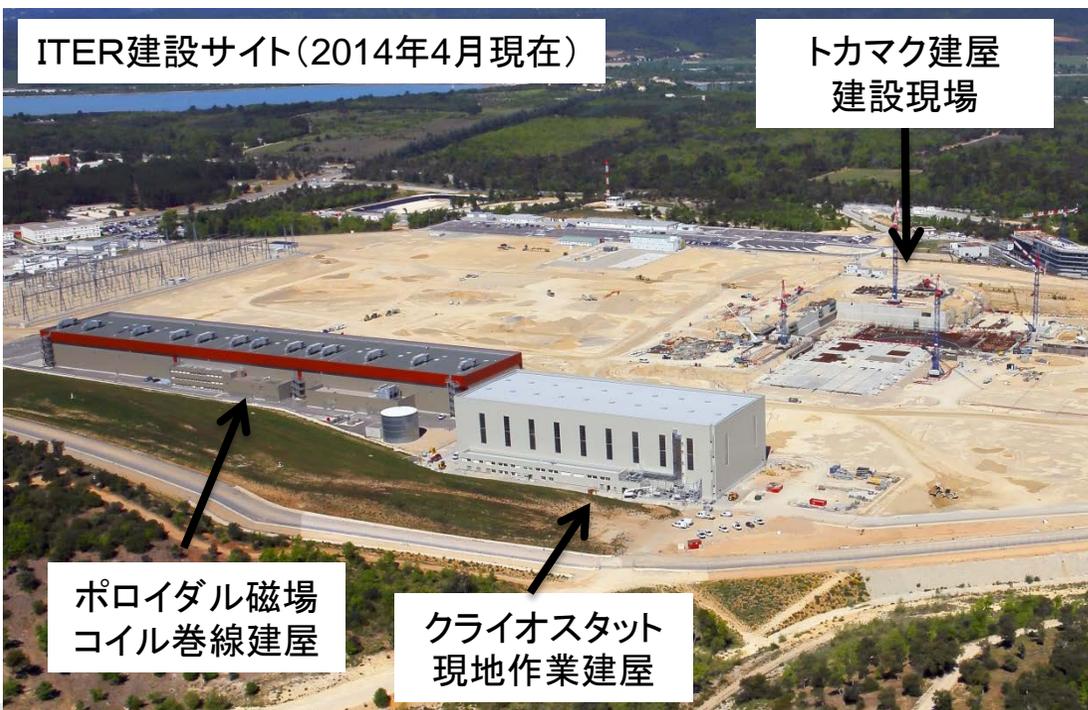
(4) その他



第14回ITER理事会の結果概要(1)

ITER機構からの活動報告

- 2014年3月末現在、全職員数515名。〈うち専門職員320名、支援職員195名〉
- クライオスタットの現地作業建屋が完成(2014年4月)。トカマク建屋の基礎部への鉄筋補強がほぼ完了し、近日中にコンクリート打設が開始される見込み。
- 2014年中に開始される主要機器のサイトへの到着に向けて、10,000m²の保管倉庫の整備を計画中。



第14回ITER理事会の結果概要(2)

プロジェクトの進展と課題

- 参加する7極から、それぞれの担当機器の調達の見込み及び遅延対策の実施状況を報告。理事会は、ITER全体の組立にとっての律速段階となっているトカマク建屋基礎部へのコンクリート打設がITER機構、欧州実施機関、及びその契約企業の精力的な努力により間もなく開始される見込みとなったことを歓迎するとともに、遅延の大きい機器(トカマク建屋、真空容器等)を優先してさらなる遅延回復の努力を行うようITER機構及び参加極に指示し、継続的に状況を確認することとした。
- 第13回ITER理事会(昨年11月開催)において報告が行われたITER機構運営の内部評価(ITER協定にもとづき2年に1回実施)を受けたITER機構のアクションプランの実施状況について機構長より説明。理事会は、ITERの建設及び組立が進展し、計画が前例の無い技術的に複雑で挑戦的な段階を迎えている中で、正しい方向に沿ってアクションが取られていることを確認した。
- 理事会は、建設段階における挑戦的課題及び必要事項に適切に対応した事業運営のために、ITER機構と実施機関との更に密接な協力の重要性を強調した。

第14回ITER理事会の結果概要(3)

その他

○2014年11月19日－20日に第15回ITER理事会をITER機構本部で開催することを決定。



＜ITER理事会メンバー＞



＜第14回ITER理事会の様子＞